

第22回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。

「最上小国川流水型ダム の 状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和5年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 令和6年3月13日（水） 13:30～15:00

2 場 所 最上総合支庁

3 出席者 10名（3名欠席）

原慶明委員長、伊藤和久委員（大沼祐介代理）、伊藤秀樹委員（大場君博代理）、梅田信委員（Web出席）、笠原啓一委員、高橋治委員、高橋光明委員（信夫代理）、星川基委員、本登渉委員（荒木康男代理）、柳原敦委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度計測】
 - ・着工前に行った予測シミュレーション結果は、ダム完成後の出水実績の概ね中間的な状況を示しており、整合性が認められる。
 - ・濁りの経年変化については、ダム完成後は継続時間が若干短くなる傾向が見られるが、大きな変化はないように思われる。引き続きデータを蓄積してほしい。
 - ・モニタリングの統括に水質調査の結果も示していくとよい。【魚介類調査】
 - ・過去2ヶ年確認されなかったヤマメが確認された理由について、資料にとりまとめておくとうい。【付着藻類調査】
 - ・AI値の高い傾向にあるが、ダム完成前後の調査頻度の問題も考えられる。
- ・荒木代理 【付着藻類調査】
 - ・強熱減量の重量についても考察に含めていくとよいと考えられる。
- ・原委員長 【魚介類調査・底生動物調査・付着藻類調査】
 - ・付着藻類については、経年的にほぼ変わらず良好な状況が継続していると考えられる。魚類・底生動物という生態系の推移は変わらずに安定している印象を受ける。
 - ・クロロフィル量の確かさを補うという点で、強熱減量・生藻類比・AI値の3つが一緒になってどう推移するかを見ていく必要がある。【その他】
 - ・出水によりダム上流の流入口に流れ着いた流木等のダムへの影響なども報告してほしい。
- ・柳原委員 【付着藻類】
 - ・藻類等に影響を及ぼす可能性がある水温についても解析していくとよい。
- ・信夫代理 【付着藻類調査】
 - ・強熱減量等の変化については、ダム上流も含めて原因を調べて整理してほしい。【河床状況調査】
 - ・河床状況について砂の割合が増えているが、ダムより上流の崩落地の影響があるのではないかと考えている。
- ・事務局 【今後の環境調査について】
 - ・環境調査については、引続きデータの蓄積が必要と考えており、令和6年度以降も調査を継続する。

【開催概況】

